

■いわて文化ノート

ナマズとコイの東北進出

佐々木 務 (学芸調査員)

1 はじめに

ナマズとコイは、ごく身近な淡水魚です。しかし、東北地方の縄文時代の貝塚などから出土する魚の骨を見てみると、ナマズもコイも確実なものを見つけることができません。これを縄文時代の貝塚からの出土資料を中心に考えていきます。

2 ナマズ

日本中に分布を広げているナマズですが、関東以北に広がったのは江戸時代のことでした。史料に記録があり、江戸時代に関東へ分布を広げたことが分かっています。また、宮本真二氏等が、こうした史料と遺跡から出土するナマズの骨の分布の状況を整理しています。その中で関東には江戸時代中期、東北へは江戸時代後期にナマズが進出してきたとされています。以下、ナマズについて宮本氏等の研究成果に従って述べていきます。

a. ナマズが出土する遺跡

ほとんどが西日本、しかも滋賀県以西に分布しています。愛知県と東京にも分布していますが、江戸時代の遺跡です。日本海側では石川県(上山田貝塚)、福井県(鳥浜貝塚)までナマズが出土する縄文時代の遺跡があります。

b. 史料から



ナマズ

柳田國男がナマズについていくつか述べています。その1つに以下のようなものがあります。

・「江湖雑談」1924年『定本 柳田國男集第31巻』1964年

「秋田から津軽地方にかけてナマズのはひって行ったのは百年位前の事ださうであるが、ナマズが繁殖し出してから、彼処のコヒや其他の魚が減って、川魚の関係が違ってきたと聞いている。」

また、江戸時代には、ナマズは淀川と琵琶湖、諏訪湖のみに生息(『本朝食鑑』元禄10(1697)年)、江戸で洪水の後、ナマズがいた(『魚譜』文政元(1818)年)、天保末(1840)年に最上川下流にナマズ出現(『両羽博物図譜』弘化元(1844)年)など関東や東北にそれまでいなかったナマズが広がったことを示す史料があります。

c. ナマズのまとめ

ナマズについては次のようにまとめることができます。

- ・縄文時代～古代のナマズの分布の中心は西日本。
- ・ナマズの東日本への分布拡大は江戸時代中頃で人為的な移植。
- ・東北地方へは江戸時代後期以降。
- ・小魚を食べる害魚として認識されていた。

3 コイ

宮城県北部から、岩手県の一関市花泉町付近は縄文時代の貝塚が集中し淡水産の魚骨や貝殻が主体となっているのが特徴となっています。全国的にも珍しい地域です。

この地域の宮城県青島貝塚の魚骨の分析をした金子浩昌氏が調査報告の中で「この地方の縄文時代にはコイの遺骸はどれもないらしいのである。」と述べています。また花泉町の貝鳥貝塚・高倉貝塚、宮城県田尻町の中沢目貝塚も魚骨の詳細な分析が行われていますが、コイは全く出土していません。

a. コイが出土する遺跡

報告書や貝塚から出土する骨や貝殻を集めた文献を見るとコイが出土していると



コイ

いう東北地方の遺跡がいくつかあります。宮城県の田柄貝塚・嘉倉貝塚・青島貝塚・南境貝塚などです。

しかし、次のような理由から縄文時代の東北地方にはコイが生息していなかった可能性が高いと考えられます。

- ・出土数が1遺跡当り1～2点程度と少ないこと。
- ・青島貝塚の場合、報告者自身がコイがいないと述べていること。
- ・田柄貝塚の場合はコイではなくウグイ属

表1 ナマズ出土遺跡

遺跡名	所在地	魚種	同定部位	時代
東京大学本郷橋内理学部7号館地点	東京都文京区	ナマズ科	鱗棘	江戸時代(17～19C)
名古屋城三の丸遺跡	愛知県名古屋市	ナマズ	部位不明	江戸時代(19C)
上山田貝塚	石川県	ナマズ		縄文中期
鳥浜貝塚	福井県	ナマズ		縄文草創期～前期
粟津湖底遺跡	滋賀県	ナマズ科	歯骨	縄文早期～中期
粟津湖底遺跡第3貝塚	滋賀県	ビワコオオナマズ	胸鰭棘、擬鎖骨、歯骨、椎骨等多数	縄文早期～中期
赤野井遺跡	滋賀県	ナマズ属	胸鰭棘、擬鎖骨、歯骨、椎骨等多数	縄文早期
亀井遺跡	大阪府	ナマズ		弥生中期
長原・瓜破遺跡	大阪府	ナマズ科の1種	歯骨	5世紀後半
森の宮遺跡	大阪府	ナマズ亜科	骨片	縄文後期～弥生中期
宮ノ下遺跡	大阪府	ナマズ属	胸鰭棘、脊椎、擬鎖骨、背鰭棘	縄文後期～弥生中期
木走遺跡および鬼虎川遺跡	大阪府	ナマズ		縄文後期～弥生前期
西川津遺跡	島根県	ナマズ	胸鰭条	弥生中期
上長浜貝塚	島根県	ナマズ	胸鰭棘	奈良～平安
矢部奥田遺跡	岡山県	ナマズ	歯骨	縄文中期末
足守川遺跡群	岡山県	ナマズ	歯骨	弥生～古墳
百間川沢田遺跡	岡山県	ナマズ	擬鎖骨、胸鰭骨	縄文晩期
草戸千軒町遺跡	広島県	ナマズ		14世紀
城山貝塚	徳島県	ナマズ?		
三谷遺跡	徳島県	ナマズ		縄文晩期～弥生前期
若杉山遺跡	徳島県	ナマズ	胸鰭	弥生後期～古墳前期
楠橋貝塚	福岡県	ナマズ?		縄文前期
下林西田遺跡	福岡県	ナマズ		
常盤橋西勢溜り跡	福岡県	ナマズ	歯骨	江戸時代～明治
下稗田遺跡	福岡県	ナマズ	胸鰭棘、歯骨	弥生前期～古墳後期

宮本2003よりナマズのみ抜出して作製

の主鰓蓋骨であること（前側に開いた縦の細長い孔が特徴）。

- ・同じ地域の主な淡水産貝塚からフナが大量に出土しているにも関わらず、コイは全く出土していないこと。
- ・詳しく研究され、現実性の高い咽頭歯で同定しているか不明なこと。

関東以西では、コイが出土する貝塚が多く、咽頭歯も多く検出されています。琵琶湖周辺の貝塚からもコイが多く出土し、50万年前のコイの化石も発見されています。こうしたことから関東以西の縄文時代には確実にコイが生息していたと考えられます。

c. 野生型のコイ

日本のコイには、「飼育型」と「野生型」二つのタイプが知られていました。飼育型は野生型より体の高さが高く、野生型はより円筒に近い体形をしています。また、野生型はより黄色みが強い体色をしています。この二つのタイプは、自然の川や池などで育てば野生型、飼育すれば飼育型になるのではなく、遺伝的なものとされてきました。野生型のコイは琵琶湖・淀川水系、

関東平野、岡山平野、四万十川など関東以西で確認されています。

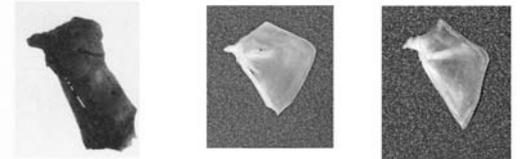
最近、ミトコンドリアDNA塩基配列の分析から、琵琶湖に住む野生型のコイがユーラシア大陸のコイとは別系統のもので、飼育型のコイは大陸と同系統だという研究成果が発表されました。

関東以西に分布するという点は縄文時代のコイの分布と一致しています。東北地方では野生型のコイは確認されていませんから、大陸のコイと同系統の飼育型のコイだけがいることになります。琵琶湖以外の野生型のコイが大陸と別

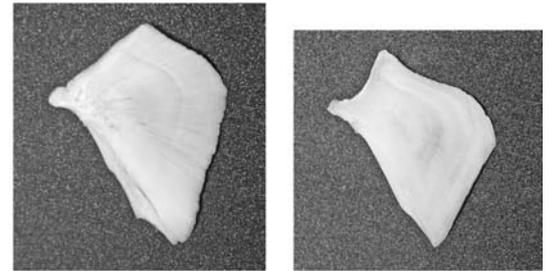
系統だと確認されたわけではないので、野生型コイ＝日本独自の系統とは言い切れないのですが、その可能性が高いように思われます。

こうしてみると縄文時代には関東以西だけにコイが生息し、弥生時代以後に人の手によってコイが東北に生息するようになったと考えられます。

コイ科魚類の主鰓蓋骨



田柄貝塚出土コイ科主鰓蓋骨 ウグイ属主鰓蓋骨 (現生標本) ニゴイ主鰓蓋骨 (現生標本)



コイ主鰓蓋骨 (現生標本) フナ属主鰓蓋骨 (現生標本)

※田柄貝塚出土コイ科主鰓蓋骨の写真は東北歴史博物館所蔵 0 1cm

では、どうやってコイが東北地方にやってきたのか？ はっきりは分かりませんが、2～4世紀の中国（漢～魏・晋）で溜池と水田の陶製の模型が墓に副葬され、溜池に魚が表現されているそうです。水田稲作の拡大と関係があるのかもしれませんが。

d. コイのまとめ

- ・縄文時代の貝塚からの出土資料からみると、確実なものは関東地方以西に限られる。
- ・野生型のコイが関東平野、琵琶湖淀川水系、岡山平野、四万十川に分布し、琵琶湖の野生型のコイは日本特有の系統とされている。
- ・野生型のコイの分布は、遺跡出土資料とよく一致する。これは縄文時代以来の分布を示すのではないかと。

4 おわりに

ナマズもコイも同じように人によって東北地方に進出してきた魚だと考えられます。どちらの魚も今では「自然」の一部です。「自然」として見ているものは実は人の手が大きく加わっているものが少なくないように思います。

宮本真二「ナマズの東進と人間活動一遺跡の魚類遺体から」『鯰一魚と文化の多様性一』2003年 馬淵浩司「自然遺産としての日本の野生型コイ」『生き物文化誌ビオストーリー vol.3』2005年

表2 コイ出土遺跡

遺跡名	所在地	魚種	部位	時期
田柄貝塚	宮城県	コイ	主鰓蓋骨	縄文後期中葉～晩期前葉
嘉倉貝塚	宮城県	コイ		縄文後期～晩期
青島貝塚	宮城県	コイ	左咽頭骨、左主鰓蓋骨	縄文中期末～後期初頭
南境貝塚	宮城県	コイ	部位不明	縄文早期末～晩期前葉
上高津貝塚	茨城県	コイ	咽頭歯、歯骨	縄文後期
中妻貝塚	茨城県	コイ	咽頭歯	縄文後期
小堤貝塚	茨城県	コイ		縄文後期
小山台貝塚	茨城県	コイ		縄文後期～晩期
冬木A貝塚	茨城県	コイ	前上顎骨、咽頭骨（咽頭歯）、歯骨	縄文後期～晩期
ト伝遺跡	埼玉県	コイ		縄文後期
石神貝塚	埼玉県	コイ	咽頭骨、鰓蓋骨	縄文後期、晩期
吹上貝塚	埼玉県	コイ		縄文中期
神明貝塚	埼玉県	コイ		縄文後期
東金野井貝塚	千葉県	コイ		縄文後期
荒海貝塚	千葉県	コイ		縄文晩期
能満上小貝塚	千葉県	コイ	椎骨、鱗棘	縄文中期、後期
石神台貝塚	千葉県	コイ		縄文後期
戸ノ内貝塚	千葉県	コイ		縄文後期
動坂遺跡	東京都文京区	コイ		縄文中期
袋低地遺跡	東京都北区	コイ	咽頭骨、主鰓蓋骨	縄文後期
日暮里延命院貝塚	東京都荒川区	コイ	咽頭歯	縄文後期
西ノ谷貝塚	神奈川県横浜市	コイ	咽頭歯	縄文前期
小竹貝塚	富山県	コイ		縄文前期
大谷山貝塚	石川県	コイ		縄文
上山田貝塚	石川県	コイ		縄文中期
観塚貝塚	静岡県			縄文後期
石山貝塚	滋賀県		咽頭骨	縄文早期
粟津湖底遺跡第3貝塚	滋賀県		咽頭歯、咽頭骨、歯骨、主鰓蓋骨、前鰓蓋骨、下鰓蓋骨、背鱗棘、方骨、舌顎骨	縄文中期
赤野井湾	滋賀県		咽頭歯、角骨、方骨、尾椎、椎骨、舌顎骨	縄文早期
浜詰遺跡	京都府			縄文後期
森の宮遺跡	大阪府大阪市			縄文後期、晩期～弥生
日下遺跡	大阪府			縄文後期、晩期
讃良川遺跡	大阪府			縄文中期
佐太講武貝塚	島根県			縄文前期
矢部奥田	岡山県		咽頭骨、咽頭歯	縄文中期
三谷遺跡	徳島県			縄文晩期～弥生
阿高貝塚	熊本県			縄文前期、中期、後期